

本文

露通も〔①〕この港まで出で迎ひて、美濃の国へと伴ふ。駒に〔②〕たすけられて大垣の庄に入れば、曾良も伊勢より来り合ひ、越人も馬を〔③〕とばせて、如行が家に入り集まる。前川子・荊口父子、その外したしき人々、日夜とぶらひて、〔④〕蘇生のものにあふがごとく、且つ悦び、且ついたはる。〔⑤〕旅の物うさもいまだやまざるに、長月六日になれば、〔⑥〕伊勢の遷宮おがまんと、また舟にのりて、

〔⑦〕蛤の〔⑧〕ふたみに〔⑨〕わかれ行く秋ぞ

（注）露通＝芭蕉の門人、八十村路通。／越人＝門人、越智越人。／如行＝大垣の門人。／前川子・荊口父子＝いずれも大垣の門人。／長月＝陰暦九月。／遷宮＝伊勢神宮の式年遷宮。）

設問

- 傍線部〔①〕「この港」とあるが、これはどこの地の港を指すか。地名を漢字で答えよ。（ヒント：『おくのほそ道』で、大垣の直前に芭蕉が滞在していた地）
- 傍線部〔②〕「たすけられて」の「られ」について、次の各問いに答えよ。
 - 文法的に何の助動詞か、終止形で答えよ。
 - ここでの意味（用法）を答えよ。
- 傍線部〔③〕「とばせて」の「せ」は使役の助動詞である。その終止形を答えよ。
- 傍線部〔④〕「蘇生のものにあふがごとく」とは、どのような気持ちを表しているか。簡潔に説明せよ。
- 「且つ悦び、且ついたはる」の「且つ……且つ……」は、どのような意味を表す言い方か答えよ。
- 傍線部〔⑤〕「旅の物うさもいまだやまざるに」を現代語訳せよ。
- 傍線部〔⑤〕中の「ざる」は打消の助動詞「ず」の活用形である。その活用形（連体形・連用形などの別）を答えよ。
- 「長月六日」とは、現在のおおよそ何月ごろにあたるか。次から選べ。
 - ア 七月ごろ イ 八月ごろ ウ 十月ごろ エ 十二月ごろ
- 傍線部〔⑥〕「伊勢の遷宮おがまんと」の「ん（む）」の文法的意味を答えよ。
- 芭蕉は何のために「また舟にのりて」出発したのか。本文に即して説明せよ。
- 傍線部〔⑦〕「蛤の」とあるが、大垣から芭蕉が向かった伊勢の地は、この貝にちなんだ「ある地名」と関わりが深い。その地名を答えよ。
- 傍線部〔⑧〕「ふたみ」は二つの意味をかけた掛詞である。かけられている二つの意味を、それぞれ説明せよ。
- 傍線部〔⑨〕「わかれ」も掛詞となっている。何と何の意味がかけられているか答えよ。

14. 「越人も馬をとばせて」を、わかりやすく現代語訳せよ。
15. 「いまだ……ざる」という言い方は、漢文訓読に由来する表現である。これを何と呼ぶか答えよ。
16. 結びの句「蛤のふたみにわかれ行く秋ぞ」の季語と季節を答えよ。
17. この発句を、掛詞をふまえてわかりやすく現代語訳せよ。
18. 句末の「ぞ」は、ここではどのような働きをしているか。文法的に説明せよ。
19. 『おくのほそ道』の作者を漢字で答えよ。また、この作品ほどのジャンルに属するか答えよ。
20. 『おくのほそ道』の旅に、作者の弟子として終始同行した人物の名を答えよ。
21. 『おくのほそ道』が書かれた時代を、次から選べ。
 - ア 平安時代 イ 鎌倉時代 ウ 室町時代 エ 江戸時代
22. 『おくのほそ道』の旅の出発地（江戸を発った後の象徴的な記述で知られる地）として正しいものを、次から選べ。
 - ア 大垣 イ 江戸（深川） ウ 平泉 エ 二見